2025年６月６日

各　　位

会 社 名　三櫻工業株式会社
代 表 者　取 締 役 社 長　竹田　玄哉
（コード番号：6584 東証プライム）
問合せ先　執 行 役 員 総 務 本 部 長　松本　安生
（TEL. 03-6879-2622）

ステークホルダーの皆さまから頂戴した質問とそれに対する回答(2025年３月期決算説明会)

2025年５月27日（火）に開催いたしました、機関投資家・アナリスト向け2025年３月期決算説明会で頂戴した主な質問とそれに対する回答を以下の通り開示いたします。

本開示はステークホルダーの皆さまへの情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的として、説明会やIR面談等の場で頂戴した質問とその回答を開示するものです。また、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1.　新規事業への先行投資としてどのような費用が増加しましたか。その投資の目的と期待される成果は何ですか。

A1.　新規事業への先行投資の内訳は、主に人件費、研究開発費、専門委託費となります。自己変革のDNAを基に、利益を創出し続けられる会社となるべく、「自動車部品事業から新事業へ」「内燃から非内燃へ」というトランスフォーメーションを通じて、レジリエントなマルチポートフォリオの構築を目指す中で、特に次世代の収益の柱となるべく、2024 年度より新規事業については専属となる体制を構えております。既存の自動車部品事業とは別に、データセンター向け事業やBEV向けの製品開発、生産ソリューション事業、飛び地領域などの研究開発にリソースを積極的に割り振っております。

Q2.　価格転嫁の効果が業績にどのように反映されましたか。具体的な例を挙げてください。

A2.　2024 年度は一昨年とは異なり、インフレも高止まりしている状況であったため、期中に上昇したコントロールの利かないコストについては、顧客に対して製品単価へ転嫁する方針で交渉に臨みました。一方で、新たに上昇したコストなどは、都度顧客とも相談しながら転嫁させていただくスタンスで動きました。2024年度は、特に日本における賃上げ上昇分の価格転嫁や、欧州における価格転嫁が一部実現できていない部分があり、その点が当初の想定からの差異となってしまいました。2025 年度も継続して価格転嫁の交渉に臨みたいと考えております。

Q3.　2026年３月期の業績見通しについて、特に注目または留意すべきポイントは何ですか。

A3.　通期の業績予想については、売上高1,470億円、営業利益55億円、経常利益40億円、当期純利益は18億円となります。

為替の見通しについてもドルを140円、ユーロを155円の前提としております。ドルの場合で前期よりも約11円円高に設定していることもあり、売上高においては海外での外貨建ての販売が1,000億円近くある中で、前年度比での減収予想は、主に為替換算による影響が大きい状況です。また、投資家様からの要望が多かった、米国関税措置の取り扱いにつきましても、当社のスタンス・前提条件を決算補足説明資料に記載しております。

以上